

2017年6月25日（日） メッセージアウトライン 「仕える者として生きる」

聖書箇所：マルコ10：35～45

タイトル：「仕える者として生きる」

テーマ：イエスは「仕える者」という言葉をとおして、この世の価値観と神の国の価値観を対極にあるものとしてお示しになった。この世の価値観での支配する者、される者、神の国の価値観での偉大な者とされる人の生き方を比較しつつ、弟子たちがイエスご自身にならって、真に「仕える者」として生きて欲しいと願われた。私たちにとって、「仕える」とはどんな意味を持っているのか考えてみよう。

1. 文脈の確認

- *十字架の苦難を目前にして、弟子たちと共にエルサレムに向かわれるイエス
- *弟子たちには危機感がない
- *弟子たちの関心事——弟子たちの中で誰が一番偉いか。神の国で自分たちが就く位。

2. ゼベダイの子ヤコブとヨハネ

①この時のヤコブとヨハネ（並行記事 マタイ20：17～28）

- *野心にあふれている

②のちのヤコブとヨハネ

- *ヤコブは12弟子の中の最初の殉教者に（ヘロデ・アグリッパにより剣で殺された。使徒12：1、2）

- *ヨハネは迫害されて、パトモス島に流された（ヨハネの福音書、ヨハネの手紙、ヨハネの黙示録の著者と考えられている）弟子たちの中で最年少。最も長生きをした。

3. 価値観の大転換

- ①この世における人の偉大さは何によって決まるか
- ②神の国での偉大さは何によって測られるか
- ③神の評価

4. イエス・キリストに見るしもべとしての生き方

- ①神の導きに従ってどこにでも
- ②人々の必要に応じて
- ③与えられたものを用いて
- ④すべてが大切な働き
- ⑤忠実であること
- ⑥人の評価を一切求めず

5. 注意すべきこと

- ①この世の価値観から解放される
- ②「仕えること」と賜物の関係

6. 結論

- ①この世の価値観と神の国の価値観を混同しないように
- ②私たちが「仕える者となる」「しもべとなる」動機は何か
- ③真のしもべなるイエス・キリストに倣う者として